

学力向上のために

文部科学省指定事業 学力調査活用アクションプラン推進事業

全国学力・学習状況調査の結果等を活用・分析して明らかになった課題のうち、地域として解決が求められている課題の改善に取り組む実践研究を行い、その成果の普及を図るものです。



山口県学力調査活用アクションプラン

校内研修の活性化

校内研修の活性化を図り、
「学校の組織的な取組の強化」
「教員の授業力の向上」
「学習内容の充実と指導の工夫改善」
に取り組めます。

家庭・地域との連携

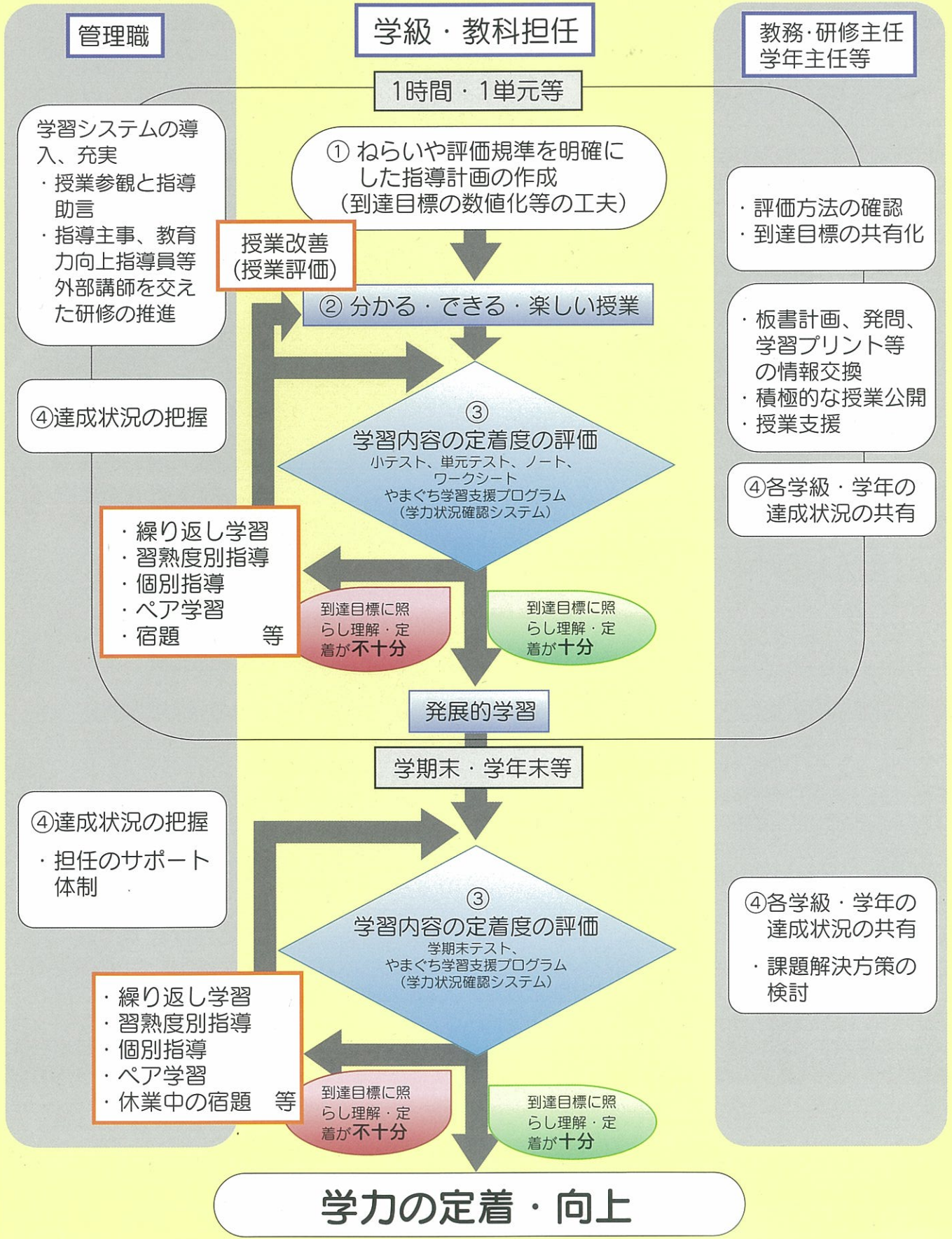
家庭・地域との連携を推進し、
「児童生徒の学習習慣の定着」
「児童生徒の生活習慣の改善」
に取り組めます。

平成22年3月

山口県教育委員会

学力の定着・向上をめざした学習システム

山口県では、各学校で児童生徒一人ひとりの状況を把握し、具体的な到達目標を定め、学校全体で達成状況を確認し、教員の組織的な取組を通して学力の定着を図る学習システムを推進しています。
担任や教科担任のみが課題を抱え込むことのないよう日常的に情報交換を行い、組織的に取り組みましょう。



全ての教員が校内研修の充実と授業力向上を実感

小学校では

(下関市立桜山小学校の実践)

■ 互見授業を習慣化

年間11回の校内研修会を開催するとともに、互見授業の習慣化を図っています。

Q 授業後、検討会の時間はどのように確保していますか？

A 短時間で実施できるよう工夫して、ワークショップ形式の研究協議会を行っています。互見授業の後、協議会が開催できないときは、授業者に気づきをメモして渡すようにしています。

■ 外部講師招聘で新しい風を

外部講師を多く招聘することは、校内研修の活性化を図り、今までになかった視点から協議を進めることができます。

Q どのような方を招聘したのですか？

A 大学の先生、県や市の指導主事等、様々な方を毎年招聘しています。(年間6回)

■ みんなの取組の共有化

研修日より、児童の学習内容の定着状況や取組の進捗状況を共有しています。それが、研修の意欲化、研究協議の活性化へとつながっています。

Q 学習内容の定着をどのように把握していますか？

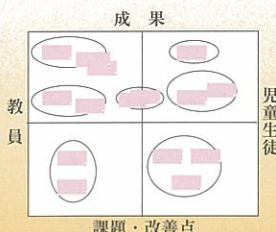
A やまぐち学習支援プログラムや下関市学習コンテンツ、さらに全学年で標準化された学力検査等を実施しています。6年間の成長を見据えて学年・学級・個人の学力の状況を分析しています。

□ 成果と課題

今年度、校内研修の充実と授業力向上を実感する教員は100%でした。3年生以上の算数の標準化された学力検査では、昨年2月と比較して大きく上回っており、成果が表れています。様々な種類の学力調査を活用し、どのように成果を確認するかが課題となっています。

校内研修会で、ワークショップ形式の研究協議を行いましょ！

- 授業研究会において、授業者の自己評価の後、テーマに沿って小グループで協議し、成果と課題を表にまとめます。全体で協議し、協議した内容を元に、自らの実践を振り返り、今後の授業改善に生かしましょう。



互見授業とは
気軽に日々の授業を見合い、互いの授業力を磨き合うことです。(下関市教育委員会が推進しています。)



平成21年度、3回目の授業研究会を行いました。〇〇先生、授業提供をいただき、ありがとうございました。
多く学ぶもののある授業であり、協議会では、短い時間ではありましたが、教材解釈など、深い話し合いが進められ、考えさせられた研究会であったのではないかと思います。また、参加した先生方には、気づきなどを書いていただき、ありがとうございました。それぞれの感じ方や考え方を知ることができました。さらに、今後の協議会でも話題としていけたらよいと思います。
ここでは、研究協議会が出た話題の中から、全校的に、共通理解して進めていきたいことなどをまとめていきたいと思います。
それぞれの学年、学級で、児童の実態に合わせて、ぜひ取り入れ、実践していきましょう。

共に学び共に育つ児童の育成

- ①授業づくりについて
- ・リズム感があり、子どもたち自身やるべきことが分かる。
 - ・発表の仕方、ノートの書き方等、指導の積み重ね。
 - ・時間を有効に使えるように仕組む。
- ②基礎・基本の定着
- ・スタートはいつも同じで、全ての子が安定した状態から始める。(つまづかせないこと)
 - ・漢字練習の習得の仕方
 - ・話す力の付け方
- (話すことに慣れさせる指導…書いてから発表、必要に応じて型を示す、苦手な子は友だちと同じでもよい など)
- (書くことに慣れさせる指導…必要に応じて型を示す、苦手な子は友だちと同じでもよい など)
- 根拠を教科書の中から取り出す。
「…です。なぜなら…」という話し方、書き方等
根拠を見つける → 論理的思考力
低学年であれば、根拠のみを書かせてもよい
- ③読解力を付ける発問
- ・気持ち(心情)を問う場合は、根拠を聞くことが大切である。
- 特に、「活用力を付けるために」…「どう変わっていききましたか」など
2つを比べて考えないといけない問題は有効

B問題の活用力を高めるためには？

山口県学力調査活用アクションプラン及び推進地域・推進校の取組の詳細は、「やまぐち総合教育支援サイト」「先生のページ」をご覧ください。
<http://shien.ysn21.jp/teacher/>

教科の枠を超えた授業力の向上

中 学 校 で は

(下関市立安岡中学校、美祢市立秋芳南中学校の実践)

■ 各教科に共通する課題を解決

全教員で協議し、生徒に身に付けてほしい力等を共有しています。

Q 教科の枠を超えた授業力の向上に向けて、どんな工夫をしていますか？

A 「コミュニケーション能力の育成」等、どの教科にも共通するテーマに絞って協議したり、ワークショップ形式の研究協議会では、全ての教員からの意見が生かせるようグループ編成(学年ごと、教科・分野ごと等)の工夫をしています。 [安岡中]

■ 教科の枠を超えた授業評価で、授業改善

生徒や教員による全教科共通の授業評価を実施し、成果を検証しています。

Q 教科の枠を超えた授業評価は、どのような内容ですか？

A 授業力向上のため、美祢市では「学習意欲の向上」を中心に据え、それを評価する指標として、「知的好奇心」と「自己効力感」を授業評価項目に設定しています。(右記評価項目参照) [秋芳南中]

Q 授業評価を授業改善にどのように生かしていますか？

A 生徒や教員の授業評価を集計し、数値化して比較するなど、生徒の意識と教員の取組の関係を分析し、授業改善に生かしています。生徒の考えや疑問を生かした授業づくりを心がけています。 [安岡中]

評 価 項 目
授業はわかりやすい。
自分の考えやみんなの意見を大切にしながら授業がおこなわれている。
授業中、自分の考えを発表しやすい。
質問をすると、真剣に答えてもらえる。
学習プリントや道具が適切に使われているなど、授業が工夫されている。
ノート(プリントなど)をとったり、自分の考えをまとめたりする時間がある。
興味を持って学習に取り組むことができた。

■ 学力向上に向けたひと工夫

Q 学力の向上に向け、他にどのようなことに取り組んでいますか？

A 他校や外部から授業者を招き、優れた実践を学ぶことで、授業力の向上を図っています。また、ボランティアによる学習会を実施しています。(年間30回) 連携している大学の学生が、授業ではT T、放課後や長期休業等には生徒の学習を個別にサポートしています。そのことにより、校内に活気があふれています。 [秋芳南中]



□ 成果と課題

生徒の考えや疑問を生かした授業づくりに積極的に取り組むなど、教科の枠を超えた授業改善の取組が進んでいます。今後は、成果の上がっている教科の取組を全体の取組に高めていきます。 [安岡中]

授業力の向上や教材研究の意欲の向上がみられます。校内研修に組織的に取り組もうとする学校風土づくりの契機となりました。授業評価と生徒の学力がどのように結び付いているかなど、研究を進めていきます。 [秋芳南中]

学習習慣の定着、生活習慣の改善

小 学 校 で は

(防府市立中関小学校の実践)

学力の向上に組織的・継続的に取り組むため、校内に学力向上委員会を設置し、学校全体の課題を把握し、基本的な方針を決めています。学力向上担当者を中心に、家庭学習の定着や生活習慣の改善に向けた取組を提案し、全校で実践しています。

■ 家庭学習の共通認識

全教員が「家庭学習＝宿題＋自主学習」という、共通認識に立って学習習慣の定着に向けた取組を進めています。

Q 家庭学習を充実するために配慮していることがありますか？

A 家庭学習の「意義や目的を明確にすること」「内容や方法を明確にすること」「学ぶ意欲の喚起と継続を図ること」「授業と家庭学習につながりをもたせ、学習内容の定着を図ること」を大切にしています。

■ 実態に応じた目標の設定

全国学力・学習状況調査にあわせて、全校生活アンケートを実施し、実態に応じて学年ごとに生活目標を決定しています。

Q 実態を踏まえ、どのような取組を進めましたか？

A 学習習慣の定着を図るため、発達段階に応じた「家庭学習の手引き」を作成しました。

■ 学ぶ意欲を高める取組を継続

担任は、家庭での学習意欲が継続するように、取組を工夫しています。

Q 家庭での学習意欲を高めるためにどのような工夫をしていますか？

A 意欲付けのために家庭学習ノートを展示したり、「ふりかえりカード」を活用したり、家庭学習メニューを紹介するなどの取組をしています。

■ 家庭の声を生かす取組

家庭と一体となった取組となるよう、学校だより等で保護者の意見を聴いています。

Q 保護者の意見をどのように集め、どのように生かしていますか？

A 毎回、学校だよりに通信欄を設けています。保護者に、内容に対する意見や要望等を記入し、提出していただいています。これらの意見を踏まえ、学校の取組の改善を進めています。

防府市立中関小学校
家庭学習の手引き 3・4年用

家庭学習をする時には スタート!

- ① テレビを消しましょう。
- ② つくえの上やまわりをかたづけましょう。
- ③ 学習中は、きちんとすわって、集中して取り組みましょう。
- ④ 始めに宿題をしましょう。
- ⑤ 時間があまった時やもっとがんばりたい時には、自主学習をしましょう。

家庭での学習環境や方法を示します

ねばり強く! えらんでやってみよう

学習時間 30分以上~

学年に応じた学習時間を示します

こんな自主学習があります。

- ① めあてをもって、音読をする。
- ② 日記を書く。
- ③ 漢字ドリルなどを使って、漢字練習をする。
- ④ 今日の授業で学んだことをノートにまとめる。
- ⑤ 計算ドリルなどを使って、計算練習をし、たしかめもする。
- ⑥ 分からない言葉をじしよで調べて、意味や使い方を書く。
- ⑦ テストやプリントでまちがったところをもう一度やり直す。
- ⑧ 読書をする(本の題名や思ったことを書く)。

学習内容のヒントを示します

家庭学習が終わったら

- ① 家の人に学習したことを見てもらいましょう。
- ② 明日のじゅんびをしましょう。
・ につかをそろえる。
・ えん筆をけする。

継続は力なり

学習後、どうしたらよいかを示します

□ 成果と課題

全校での取組が、家庭学習の習慣化、ひいては学習内容の定着や学ぶ意欲の向上につながっています。防府市では、この「家庭学習の手引き」を市内小・中学校へ配付しており、取組が広がりつつあります。

今後は、生活習慣改善のための授業提案にも取り組みます。

家庭と連携した Plan Do Check Action

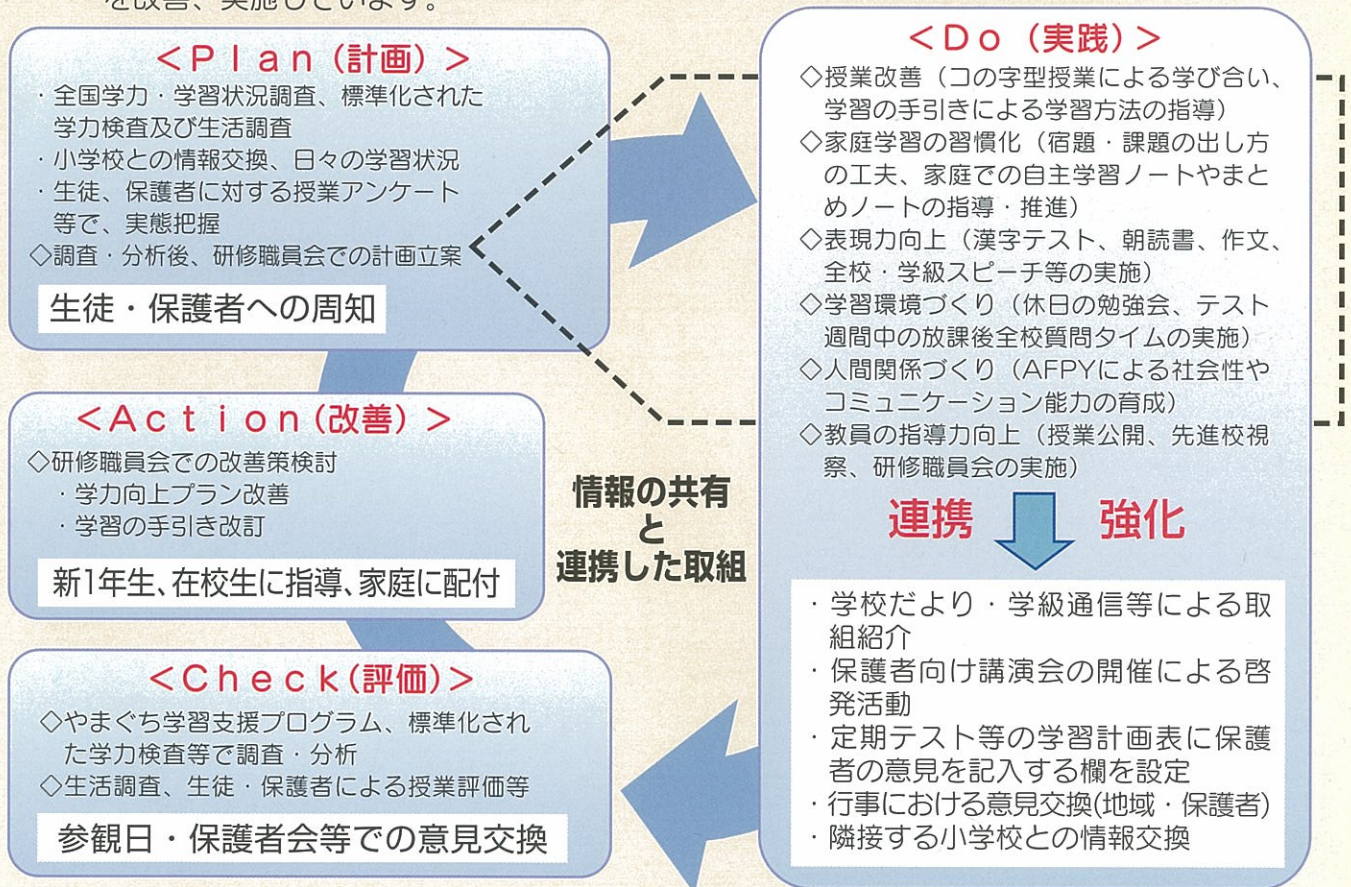
中学校では (宇部市立小野中学校の実践)

全国学力・学習状況調査や標準化された学力検査等を活用して、全校生徒の学力や学習状況を把握し、日々の指導の工夫改善はもちろんのこと、家庭と連携した学習習慣の一層の定着を図っています。生徒に主体的な学びが身に付くことで、学力の向上につなげています。

■ 家庭と連携した学力向上のPDCA サイクルの構築

Q いつ、どのように家庭との連携を行っているのですか？

A 図のように、常に学力向上に向けた情報を家庭と共有し、ご意見をいただき、学力向上の取組を改善、実施しています。



Q どのように学習習慣の一層の定着を図っていますか？

A 学校では、毎日提出する「自主学習ノート」、授業の復習にも活用する「まとめノート」を確認し、宿題や課題の出し方等の工夫を図り、「家庭学習の手引き」を活用して生徒一人ひとりのきめ細かな指導を行っています。また、このような取組を入学前から生徒や保護者に対して説明を行っています。

□ 成果と課題

家庭での学習時間が増えたと感じる保護者が67%、毎日、1時間以上学習する生徒が87%となっています。また、「教科の基礎・基本の到達度10%アップ」の目標を達成することはできましたが、個別には定着していない基礎・基本の内容もあるなど、課題も残っています。今後は、これらの課題に応じた学習習慣の定着等に取り組みます。